

第二の茶番劇の幕を閉じよう！

「富士見町団地を住み良くする会」は何を目指すのか？

- その「世話人会」がまず初めにすることは！ -

05/9/10 居住者・組合員

本日“「富士見町団地を住み良くする会」の立ち上げについて”(2005/09/10)

という得体の知れない物が配布されました。

さて、冒頭から、

第11回通常総会(平成17年5月29日)において、「建替え推進決議」が否決され、建替えについて今後具体的な検討を進めていくことができなくなりました。

とある。

すぐ、前に、読んだ事がある文体だなと気づく。

これは、「前年度建替え合同会議」(実態は、今期の理事会三役と、同じ)のエセ「総括」と同じものです。それはそうでしょう。この「富士見町団地を住み良くする会」の世話人会の3名のうち2名は、2004年度「建替え委員会」の委員長と同副委員長なのだから。

もう1名の副委員長は、理事会副理事長(恥知らずにも今期も副理事長、このようなことを、正しい日本語では、厚顔無恥という。)なので、世話人会には、名を出していない。

建替え問題の本質

なぜ、総会で「推進決議」が否決されたのか！！

第一に、「一括建て替え」を組合員に合意を求めること無しに、強引に進めたこと。

第二に、「建替え」に参加できない組合員に対して、何ら対応策を提示せず、「追い出し」をかけた事にあります。

この、理事会提案を、支えてきたのが、前年度の「建替え委員会」の中心メンバーです。

その「建替え委員会」の前正副委員長が、今度は、何をしようと、いうのでしょうか？

組合員の多くを、不安に陥れ、またコンサルタント費用として、組合費の浪費を「推進」してきた責任は、断じて、免れるものでない。

従って、この「会」の最初にすべき事は、「世話人会」の厳格なる「反省」と「自己批判」でしかない。その上に立って、初めて、「団地の再生」が口にできるというもの。

今総会で、「推進決議」が否決され、今期は「建替え委員会」は、存在し得ません。

「会の趣旨」で、わざわざ、(理事会に関係ありません)などと、断っているが、会の中心の意向は、明らかであろう。

理事会の中にも、有志で「将来を考える会」などという意味不明な組織ができたが、この両者共に、「修繕」、「エレベーターの設置検討」など言い出している。

共に、その中心メンバーは、「一括建替え」ゴリ押し派であり、**今総会での挫折後、何の方針も見いだせず、彼らが「一括建替え」以外、何の検討もしてこなかった事を、見事に露呈している。**

このような人達に、団地の将来を任せて、いいはずがない！

臨時総会で、？委員会を設立する？！

違うでしょう！ 塵を取り除くことでしょう！